

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2020

事業所番号	2692100023
法人名	社会福祉法人成相山青嵐荘
事業所名	グループホームせいらん jかさまつ
所在地	京都府宮津市小松小字下ヶ濱326-1
自己評価作成日	令和2年11月23日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://seiransou.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	令和2年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームせいらんは平成24年3月に開所し今年で9年となります。穏やかな阿蘇海の海辺に木造建で居室からは馴染みのある天の橋立松並木や花火が望める環境です。今年度はコロナの関係で出来ませんが、小学校やこども園・事業所の祭りや地区文化祭などの地域住民との交流を積極的に行ってきています。また、ご飯作りや掃除・畑仕事などで出来る事や役割や出番、その日の過ごし方や食べたいもの・行きたい場所・したい事などの自己決定や楽しめがあります。職員は、法人理念である“生きる喜び、生きる楽しさ、生きる尊さ”を実感できる暮らしの実現を目指し、いつも笑顔で対応するという事を目標に日々の生活の中で介護支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都府北部、天の橋立よりも海沿いに立つ平屋建て、開設9年になる2ユニットのグループホームである。職員の交代は少なく、管理者や職員は働きやすい職場だとチームワーク良く業務に励んでいる。入りたいと希望すれば毎日でも入れる檜風呂の入浴、地元の食材を使った季節感のある和洋中の3食手作り、利用者も巻きずしを巻く、餃子を包む、おはぎを作る等に喜んで参加している。気分を変えて玄関先のベンチで食べたり、時には豪華なお弁当を持って出かける花見やコウノトリの郷公園へのドライブ等は利用者の楽しみとなっている。室内には生け花の先生をしていた利用者にも季節の花を生けてもらい、大きな飾り絵を利用者と一緒に作り、飾っている。今はコロナ禍のため、ボランティアによるイベントがなく、外出も少なくなっている。利用者第一に仕事をしている職員たちが考えたお楽しみ会は、童謡に登場するカメ、サル、イヌ、ウサギ、ウマ等に仮装して跳ね回り、利用者はその童謡を大笑いしながら歌っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や職員倫理規定は定期的に職員会議などで唱和しており、職員のネクストラップにも携行している。 グループホームが目指す支援『にっこり・ほっこり・ゆったり』を実践している。	開設時に管理者や職員が話し合い、グループホームの理念「ゆったり、ほっこり、にっこり」を策定、ホーム内に掲示、パンフレットや広報誌に掲載、利用者や家族、地域の人に周知を図っている。職員は会議で唱和している。理念の実践として、職員が業務優先で忙しく動きまわることなく、利用者の笑顔のために職員同士も笑顔で対応、ホームの内部を利用者が安心して過ごせるような空間になるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年なら夏祭り開催や、こども園との交流、文化祭への出品や見学を行う事で地域の方々との交流を行っているが、コロナウイルス感染予防のため中止している。	利用者はふだん、ホームのまわりや近くにある海沿いのサイクリングロードを散歩している。畑を借りて野菜を育てており、利用者は苗植えや水やり、収穫を楽しんでいる。スーパー、郵便局、喫茶店、理美容店等、地域の店を利用している。自治会に加入している。府中地区、溝尻地区の文化祭に利用者は作品を出展、見物にも行っている。地区の運動会に参加、こども園の運動会見学等、地域の行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの外の掲示板を利用したり、認知症安心相談窓口を継続して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度面会・外出について制限をしているため 運営推進会議についても、委員の方に文書にて報告をしているのみとなっている。	利用者、地区の民生委員2人、元民生委員、借りている畑の地主、宮津市健康管理福祉室が委員となり、隔月に開催、会議記録を残している。ホームから利用者状況、職員状況、行事等を報告、電話で意見を聞いている。職員研修と事故・ヒヤリハットの報告はしていない。	運営推進会議には家族、地域の人、行政が参加し、グループホームが地域密着型サービス事業所としての運営について協議する会議である。家族や自治会や一般の地域住民に参加してもらうこと、ホームからは利用者状況だけでなく、事故・ヒヤリハットや職員研修(内部研修や外部研修共)の報告をすること、委員からの意見は書面でいただくこと、会議録ではなく議事録を作成すること、議事録を全家族に送付すること、以上の5点が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして市町村担当者にもご同席いただき、ご意見をいただく体制となっています。今年度は会議の開催が出来ず、文書での報告となっています。	宮津市には必要な報告や相談をし連携をとっている。地域ケア会議に参加、情報交換している。認知症ネットワークに協力、ラン伴に参加している。介護相談員を受け入れていたが、今年は派遣中止となっている。市にグループホーム連絡会はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加したり、ユニット会議で検討を行っている。また、職員同志で注意喚起を行っている。夜間のみ施錠している。	身体拘束をテーマに職員研修を年2回以上実施、職員はスピーチロック、やむを得ず拘束する場合の3要件等について認識している。身体拘束適正化委員会があり、委員が日常的に現場を点検している。センサーを含め身体拘束の事例はない。玄関ドア、ユニットドア、非常口等、日中はすべて施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修に参加し、虐待や不適切ケアに対し常に意識を持ち、職員間でも声をかけあったり、ユニット会議等でも点検を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護事業を利用されている利用者は居られないが、過去に居られたため管理者は資料を保管し必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には管理者より書面を基にご本人・ご家族等へ説明し、署名・捺印をいただいている。また、ホームの情報が分かるよう、対象となる方や事業目的をホームページに掲載している。面接調査時に説明を行う事		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際や電話等でいただいたご意見は記録し対応等を職員へ伝達して取り組んでいる。運営推進会議ではご利用者の出席もある。また、事業計画の内容についても運営推進会議で取り上げたり、その内容は職員間でも共有している。	家族の面会は月に2、3回くる人もある。恒例の「せいらんまつり」に家族を招待、5家族が参加している。家族会は実施していない。利用者の顔写真を多数掲載した広報誌『せいらん』を発行、家族に送付している。家族には行事の案内やお誘い、職員異動や献立等を知らせていない。家族に利用者ごとの個別の便りと写真を送っている。家族から「面会できないので写真がありがたい」「面会したい」という意見があり、テレビ電話の面会を支援している。	家族は職員と共に利用者を支える車の両輪のひとつである。家族には行事報告だけでなく、気軽に参加してもらえるように行事のお誘い、職員紹介だけでなく職員異動、ある日の献立等を報告すること、家族に利用者ごとの個別の便りを毎月出すこと、家族会を開催し、家族同士が交流できるようにすること、家族にグループホームの行事に協力してもらうこと、以上の4点が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で職員からの意見を上申したり、経費削減の目的で牛乳パックや包装紙の再利用・節電・節水においても職員の意見を聞き実施している。また、年に1回の職員のストレスチェックや職員によるヒアリング調査を実施している。	職員会議を毎月開催、法人との連絡調整、運営や行事についての検討をしている。会議では職員は積極的に意見を述べている。利用者のカンファレンスをするユニット会議も毎月開催している。職員は身体拘束、感染症、行事、広報、防災等の委員会活動をしている。内部研修は必要なテーマで実施、外部研修の受講には交通費、受講料等の補助がある。4～7日のリフレッシュ休暇制度、個人の事情を勘案してくれる勤務体制、ストレス対策等の仕組みがあり、働きやすい職場となっている。他のグループホームを見学し、学ぶことも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、成果や達成度について双方が確認できる面談の機会があり、年に一度リフレッシュ休暇を取得している。就業中の職員の事故怪我などが発生した場合は自法人内で情報共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の事前研修・新任・中堅・指導職研修の階層別研修を計画的に実施している。また自法人内の委員会主催の身体拘束ゼロ、虐待防止、感染症対策、事故防止等の研修を受講したり、外部の研修・自己啓発の勉強会や研修の情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス部会の研修や地域ケア会議へ参加をする事で、同業者や福祉・医療関係者との関係作りの機会がある。他法人の地域密着型サービス事業所からの訪問もあつたり、自法人主催の研修会で他法人職員を招いて講師をして頂く事もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホームの見学をお勧めし生活の様子をお伝えし、安心・納得していただけるよう取り組んでいる。入所後はご本人の意見を聞き、出来る限り対応できるよう支援している。また日々の様子を観察し変化に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で聞き取りをし困っておられる事をお聞きする事で安心して生活できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の調査で、ご本人の生活課題や環境調査し、担当ケアマネとの連携や他事業所の受け入れ情報を提供することがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ・手芸や工作、食事作りなどの得意とされる事を職員と一緒に言い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状態や日常の様子をご家族へ電話でお伝えしたり、写真付きでお手紙を送付している。時には電話の取次ぎを行いご家族とのつながりをもっていたい。病院受診も職員が同行し、ご家族のご都合に合わせて対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより外出や交流が出来ないが、病院受診の帰りにドライブでご利用者のご自宅等を見て気分転換していただいたり、思い入れのある場所や名称、行事等のお話をお聞きしている。	利用者が「家に帰りたい」と希望するときは職員が車で家のあたりを通っている。受診の際に家のあたりに行くこともある。利用者の家の近所の方が面会に来る。亡夫が大工で檀家の寺の修繕をしたという思い入れのある寺に行きたいという利用者を同行している。利用者が毎年初詣、花見、紅葉狩り等をしていたという場所へそれらの時期にはドライブで同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新聞たたみや洗濯物、工作作りやレクリエーションをご利用者同士が一緒に行えるよう職員が橋渡しし、ご利用者同士が協力し合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も職員とご家族やご本人と連絡をとったり、他施設へ移られた方に、ご利用者からの贈り物をお届けしたり面会をした。入院により契約が終了した場合も職員からご家族へ経過をお聞きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談でご本人・ご家族から聞き取り調査を行ったり、日常会話する中でご本人の思いや希望をお聞きし、その人らしく暮らして頂けるよう支援している。	契約時には管理者が利用者、家族に面談、グループホームの説明をすると共に利用者の医療や介護等の情報を収集している。同時に利用者や家族のグループホームでどんな暮らしを望むのかを聴取している。利用者の意向は「楽器クラブの指導は続けたい」「ここに誰か知り合いがいるかな」「どうしたらよいか、教えてほしい」等、ありのままの思いを記録している。利用者の生活歴の記録はない。	長い人生を過ごしてきた利用者のグループホームでの暮らしを支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。生まれた場所、父母の仕事や兄弟姉妹等生家のこと、子ども時代、現役の時の仕事や趣味、仕事仲間や友人、夫や妻の仕事と子どものこと等結婚生活等々、利用者の生活歴を収集し記録し、職員が共有することが求められる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から交友関係をお聞きする、担当ケアマネより情報提供してもらい、ご本人と会話し昔の事をお聞きする、面接記録を確認するなどして把握できるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況をケース記録に残し健康チェック・食事量・月一回の体重測定・排泄・取り組まれた活動を記録し一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご利用者のアセスメント・ケアプランの見直しをユニット会議で検討している。ご家族が面会に来られた際や電話の際はご利用者の様子をお伝えしている。	ケアマネジャーがユニットリーダーと共に利用者のアセスメントを実施、職員や家族、医師の意見を反映した介護計画を作成している。介護計画は「洗濯ものたたみ」「下膳」等家事、「歩行見守り」「入浴見守り」「更衣支援」等であり、「利用者の意向に添った項目」「その利用者らしい暮らしの楽しみ」「認知症周辺症状への対応」の項目が不十分である。介護記録はバイタル、食事、排泄、入浴、行動等、生活のデータである。介護計画の実施記録として書いているものはどの項目なのかがわかりにくく、利用者の反応等による評価がしにくい。モニタリングは介護計画の評価になっていない。	介護計画は利用者の意向に添ったものであり、どの利用者にもその人固有の暮らしの楽しみの項目を入れ、また認知症の周辺症状への対応の項目を入れること、介護記録は生活のデータだけでなく、介護計画の項目別に実施した時の利用者の反応や表情、発言等を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは介護計画の評価であり、毎月実施すること、以上の3点が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容・計画を基に毎日モニタリングチェックを実施し、ユニット会議で検討する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合のつかない時は医療機関との連携や同行支援をしたり、送迎や買い物など必要に応じて柔軟な対応を行っている。(コロナ対応のため受診対応は職員にて行っている。)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭に作品を出展したり、施設での行事や地域での行事に参加できるよう支援を行っているが、本年度は新型コロナの影響により実施できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続や急な場合や必要な時は職員も同行し支援している。かかりつけ医に健康相談したり、他の医療機関へ紹介状を書いてもらったり、その内容をご家族に報告している。	利用者のかかりつけ医は入居前からの医師であり、往診にきてくれる医師もある。歯科も入居前からの医師である。認知症については認知症疾患北部医療センターに受診している。利用者の定期受診に同行するのは家族と職員である。利用者のグループホームでの状況は職員が医師に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、かかりつけ医の看護師に相談させてもらうこともあり連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送の際は、専用の情報連絡用紙を使用したり、2か所の総合病院との協力医療機関契約を締結している。市内の医療機関や施設が出席する地域ケア会議にて連携を深めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの設備や人員配置体制を含め、ホームのできる事や対象となる状態等を契約時にお伝えしている。現在ターミナルケアは行っていないため、そのような時期には、ご家族へご説明し他入所施設との連携や総合病院の連携室と連絡調整を行っている。	利用者の重度化や終末期における対応についてグループホームとしての方針は重要事項説明書に書いており、契約時に家族に説明している。それによるとグループホームでは「看取り」に対応しない、である。家族の意向を聞いており、同意をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が定期的に救急救命講習を受講しており、AED使用手順と応急手当や初期対応についての訓練を受けている。また、事故防止の委員会活動やヒヤリハット、食中毒の防止、感染症予防対策を行っている。	tuie	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署から訪問してもらいアドバイスをもらう機会があり訓練の立ち合いの協力がある。	消防署の協力のもと火災の避難訓練を年2回実施している。備蓄を準備し、ハザードマップを掲示、職員は危険な箇所を認識している。災害時における、法人内協力体制がある。また地域の協力を得られるように依頼をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束や虐待などの研修に参加し、ご利用者の人権や尊厳を守り、言葉の拘束や不適切な支援にならないよう職員間で注意喚起しあえるような関係作りを行っている。	利用者への対応や言葉遣いについて「はっきりした言葉、丁寧な話し方で対応する」という基本方針があり、職員研修をしている。友達言葉や子ども扱いは禁止している。職員はお互いに注意しあっている。職員会議や職員同士の申し送りは会議室等で実施、利用者のプライバシーに配慮している。生活ではどんなことも利用者に決めてもらいたいと、利用者が着る服や飲みたい飲物を選択してもらっている。お化粧をする利用者がある。髪型は訪問美容を利用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中でご本人の希望や要望をお聞きしたり、衣類や飲食物を選択していただいている。また、誕生日にはその方の好きな食べ物をお聞きし提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調や、その日のリズムに合わせ入浴等の時間を調整したり、入浴の順番の希望をお聞きし希望に添えるよう臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の希望に合わせて衣類を一緒に選んだり、髪の設定をおこなっている。また、ご家族様に連絡をとり、その方にあったサイズ等の服をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に食事を作ったり、お正月や敬老祝賀会では祝い膳を準備したり、誕生日には好きな食べ物の聞き取りを行っている。食器洗いや調理の手伝いもして頂ける事もある。	利用者に食べたいものを聞きながら職員が献立を立てている。季節感のある和洋中のバラエティに富んだ献立である。食材は近くのスーパーへ買いに行き、畑で収穫した野菜も食卓に上る。3食とも職員の手作り、利用者も買い物や野菜切り、味付け等、できることをしている。職員も利用者と共に会話しながら食事を楽しんでいる。食事摂取が困難な利用者はいない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方は減塩に努め、食事量などを記録に残しご本人に合わせた量や大きさを提供している。入浴後には水分補給も行い脱水症の予防をしたり、毎月体重測定も行い健康管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄・食後の口腔ケア・食事前に口の体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけトイレのタイミングや量に合わせて時間を調整し声かけを行い、車いすの方でもトイレに座って頂く時間も作っている。ご利用者が不快な思いをされないようパットの確認をさせていただき、必要に応じ交換している。	尿意がありトイレの場所を知っていて自身で処理するという、排泄の自立をしている人は8人、日中もオムツ使用の人は2人、あとの8人はリハパンとパット使用で、利用者の排泄パターンを把握している職員が声掛けし、トイレ誘導している。水分、食材、運動等で自然排便を支援している。下剤を服用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の排便を記録し、お薬の調整だけでなく、体操や運動、食事や水分摂取などで出来るだけ自然排便が出来るように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望があれば、その時間に入浴していただいている。ご利用者のペースを大切にしゆっくり湯船に浸かっている。冬至にはゆず風呂をし楽しんでいただいている。	浴室には檜風呂を据えている。入浴は毎日準備し、利用者に声をかけ「入りたい」という利用者を支援している。毎日入る人はなく、おむね毎週2～3回の入浴となっている。「入りたくない」と入浴拒否が続く人も、日時を変えたり、声掛けに工夫したりにより、5日以上、入らないことはない。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、ご利用者のペースで休んでいただいている。快適に休んでいただけるよう、定期的に寝具のカバーを洗濯したり、入浴日にはパジャマも洗濯し室内温度や室内灯の明るさの調整もやっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書にて情報を管理し、処方薬が出た時には常に新しい薬情書に差し替え、薬の変更があった場合は職員全員が情報共有し、症状の変化などあった際はケース記録として残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物、手芸などご利用者が得意な事を日常の会話で聞き取りをし、職員と一緒にお手伝いをして頂く事で役割を感じていただいている。草抜きや外での洗濯干しなども、無理のない範囲でして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより制限しているため例年のように外出はできていないが、ご利用者の希望で近くに散歩へ出かけたり、短時間でもドライブに出かける支援をしている。また畑での栽培や収穫もお手伝い頂く事で季節を感じて頂いている。	利用者はふだんホームのまわりや近くのサイクリングロードを散歩している。気候が良く、天気が好ければ週に2、3回は外へ出ている。初詣、花見、紅葉狩り等、季節ごとやそのほかにコウノトリの郷等へのドライブは車椅子の人も一緒に出かけている。利用者が「〇〇へ行きたい」「〇〇を買いたい」等、希望が出ると職員は個別に車で同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望の方については、居室に少額の金銭の所持をしていただいている。今年度は外出・買い物・夏祭りなども中止となり、対外的に使用して頂くことができていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は施設の電話を使用いただき、ご利用者との取り次ぎを行っている。ご利用者に年賀状を送られるか希望をお聞きし、希望される方には送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にベンチを設置し日向ぼっこをしたり、時には歌を歌ったり食事をするなどしている。風呂場やトイレなど目印をつけ、わかりやすいようにしている。季節にあった壁飾りを作成したり、作成中には季節感ある会話が楽しめるよう工夫している。	玄関にベンチを置き、気候の良い時期は利用者が日向ぼっこやお茶をし、近隣の人と交流している。ホームの中央にある居間兼食堂(ホール)には食卓と椅子のほかソファコーナーにテレビを置いている。クリスマスツリーを飾り、賑やかな雰囲気になっている。ホールの壁には掛け時計やカレンダーと共に、利用者と職員が季節の飾り絵、3月には雛飾り、5月にはこいのぼり等、大きな飾り絵を制作して掲示、季節感を出すと共に室内をやわらかい雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士が楽しく過ごして頂けるよう、席の配置を調整している。テレビ前のソファには好きな時にご利用者が座っていただけるようにしている。新型コロナにてユニット間の行き来は中止しているが、様子を見ることはできる状態にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	南志見の物やご家族との写真や誕生日や母の日などのプレゼントや写真を飾ったり、職員とご利用者と一緒に作成した作品やご利用者が塗られた絵なども飾り、安心した居心地の良いお部屋作りをしている。	居室は洋間でベッド使用の人、畳を敷いている人もいる。クローゼット、洗面台、エアコンを設置している。利用者は衣装ケース、ポールハンガー、椅子、座椅子、机、テレビ等を持ちこんでいる。寝具類、化粧品、筆記具、雑誌、ぬいぐるみ、エレクトーン、ケータイ、家族写真、時計、カレンダー、自作の塗り絵や折り紙、誕生日にもらった職員の寄せ書きの色紙等、居室内にあるものが利用者らしさを表している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口にはご利用者の名前や目印を、トイレや浴室、非常口はわかりやすい様に表示をつけ、ご利用者が夜間にトイレに行かれる際にセンサー式足元灯を使用している。薬物の施錠管理も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている				
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている				
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる				
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			